

足立区長賞

「ふるさと納税」

足立区立 蒲原中学校

三年 島崎 紗英

ふるさと納税は「納税」という言葉がついていますが、本来は自分の居住地の自治体に納付すべき税金を、任意で選択した自治体に寄付することが出来る制度のことです。人口の多い都会は税収が多くなり、人口の少ない地方では税収が少なくなるといった税収の偏りを解消するために導入されました。所定の手続きを行くと「住民税の控除・所得税の還付」を受けることができ、寄付先の自治体から返礼品を受けることができるため、利用する人が年々増えています。

制度について詳しく知らなかった私には、カタログギフトで全国からの欲しい返礼品を選ぶような、楽しいイメージのものでした。

千葉に住む祖父母の家に行ったときの事です。母が届いた返礼品の話をすると祖母は、「私はふるさと納税はやらないの。」と言いました。やり方がわからないのだと思った母が、インターネットで簡単にできることを伝えようとしたのですが、そうではなく、祖母の住む市の隣の市では、ふるさと納税による税収の流出により、燃えるゴミの収集日が一日減ったのだそうです。

「受けられるサービスが減ると困るから、私はふるさと納税はやらないの。」と祖母は言っていました。私は、ふるさと納税にマイナス要素があると考えたことがなかったので、それについて調べ

てみようと思いました。

足立区では、区外にふるさと納税をする人が年々増え、令和四年度は約二十一億円の減収となりました。これは、区内の全小・中学校の一年間の給食費二十三・五億円の九割に相当する金額です。現在、小・中学校の給食費は無償ですが、減収を理由に無償化が取りやめになったら、困る人がたくさんいると思います。他にも、防犯や防災対策が疎かになったり、街の必要な補修がされなくなるかもしれません。

ふるさと納税というと、返礼品に目が行きがちで、それが自分の居住地の税収の流出に繋がること、行政サービスの低下を引き起こす要因になるかもしれないことには、気付けていないのではないのでしょうか。

もちろんその寄付金で、出身地の応援や被災地の復興支援ができたり、返礼品を通じて知らなかった市町村に興味を持ったりと、良い面もたくさんあります。

ふるさと納税の良い部分にも悪い部分にも気付くことができたので、母とも話し合ってみようと思いました。また足立区も、返礼品の内容を充実させるために、公募でアイデアを募ったりしているのです、税収の流出に歯止めがかかるのか、今後調べていきたいと思っています。